



教会短信

2013年6月16日

No. 51

牧師 間瀬 善彦

人間はだれもが自我に目覚め、自分がなぜこの世に生命を与えられ生きているのか、考える時がやって来ます。赤ちゃんとして生まれ、親の保護下から、1人の人間として自立して生きていく途上で、自分には何が必要なのか思い悩むのです。わたしの場合は、中高生の思春期でした。自分の生きている意味を見つけ出そうと、いろいろな物に関心を向けました。本もたくさん読みました。

夏目漱石の『三四郎』の中に、ストレイシープ stray sheep (迷い出た羊) という言葉が出てきました。この言葉はその本の解説によると、聖書のマタイによる福音書 18章 12~14節からの引用だとありました。わたしが聖書の内容に触れた最初の出来事でした。百匹の羊を飼っている者が、そのうちの一匹が迷い出た時、他の九十九匹を山に残しておいて、一匹を捜し求め、それを発見した時には、他の九十九匹に勝って、捜し出したこの一匹を喜ぶのです。神の御心もこの羊飼いの心と同じです。神の愛の大きさを表わしています。

わたしはこの話の意味が最初はよくわかりませんでした。しかし、その後キリスト教会の礼拝に出席するようになり、人生に迷っているわたし自身がストレイシープであることがわかりました。教会に行って最初の日に教えてもらった聖書の言葉も印象的でした。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。……そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる」(マタイ 11:28-29)。

自我に目覚め、1人の人間として自立しようとしていたわたしは、人生をどのように生きるべきか迷っていました。まさにわたし自身がストレイシープでした。そのわたしをイエス・キリストは見つけ出してくださったのです。神の愛の素晴らしさ体験させてくださいました。わたしはキリストと共にあることにより、真の安らぎを与えてくださいました。これこそ、聖書が教える救いの体験です。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます」(使徒言行録 16:31)。

教会に行く喜び

日曜日は私にとって一番大切な日です。午前 10 時 30 分に礼拝が始ります。

その礼拝の中で最も中心となるのは、聖書の言葉の学びです。その学びの中で、時々、はっとする言葉に出会います。

神様は、人間が互いに愛し合い、助け合って生きていくことを望まれているのです。それなのに、なぜか人間は自分自身だけが良い思いをしたいという欲望が芽生えて、生存競争が始まり、競争相手を憎んだり、嫉妬したりする愚かな歴史を繰り返してきました。そのようなお話を教会で聞いているうちに、現代の社会に生きている自分もその 1 人であることに気が付き、とても恥かしくなりました。

神様は、そのような人間を憐れんでくださり、御子イエスをこの世に送って下さいました。しかし罪深い人間たちは、イエスを十字架につけて殺してしまいました。

すると、神様は、罪に汚れている人間が、神様に何もお詫びもしていないのに、人間の罪を問うことなしに、ご自分の御子イエスを犠牲にして、神様と人間を和解（仲直り）させて下さいました。あまりにも深い神の愛！ このことは聖書のコリントの信徒への手紙第二章 19 節に書かれてあります。「神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです」。

礼拝の後に、質問したり、お互いに意見を交わす「教会学校」というひとときがあります。教会で用いているテキスト『拡大する人生』によると、「罪」とは悪いことをするだけではなく、自分の心を「自我」が支配し、救い主であるイエス・キリストを拒絶し、自分の欲望のままに生きる生き方であることを知りました。救い主イエス・キリストに自分を委ねて生きることは、何と素晴らしいことでしょうか！

教会の信仰の友との交わりは、大変楽しいです。イエス・キリストによって結ばれている仲間たちには、気を使ってお世辞を言う必要もなく、社会的地位とか家柄などを比較する必要もありません。主イエスこそ自分の救い主であることを確かめ合い、励まし合って、お互いに祈り合います。礼拝が終わると、「過ぎた一週間、この友をお守りくださいましてありがとうございます」と心の中で神様に感謝しながら、1人1人と笑顔でしっかりと握手します。このような喜びを与えてくれる所は、教会のほかにはありません。



- ・ 6月16日（日）教会では日頃のお父さま方や、
男性の方の働きを覚えて感謝の時をもちます。
- ・ 5月12日（日）は、お母さま、女性の方にも感謝の時をもちました。

聖書の言葉で磨かれた人たち 星野富弘

人生は、時に思いもしない形で暗転することがあります。中学の体育教師として活躍していた星野富弘は、器械体操のクラブ活動での事故で、手足の自由を失います。それから9年間の入院生活中に聖書と出会い、洗礼へと導かれます。筆を口にくわえて文字と絵を描き始めたのもこの時でした。自宅に戻ると、彼は詩画の創作を本格的に始めます。

最初は線を描くのも大変でしたが、次第に独特の味を醸し出す世界を表現しはじめ、素朴で正直なメッセージが多くの人を魅了します。彼の故郷である群馬県の山村には作品を展示した美術館があり、年間35万人が訪れています。「私がどんなに絶望しようが、どんなに生きてくれないと思おうが、いのちというものが一生懸命生きようとしている」（『たった一度の人生だから』いのちのことば社フォレストブックスより）

信仰の土台の上に創られる彼の詩画は、地から顔を出す野の花のような美しさとたくましさ、そして希望に溢れています。

（『聖書の品格』いのちのことば社から引用）

日曜日は教会へ集会案内

主日礼拝	日曜日	午前10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前11時45分～12時30分
	青年科・成人科	
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時30分～ 2時30分
聖書研究・祈祷会	水曜日	午後 7時30分～ 8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3427-2352

※当教会はプロテスタント教会です。エホバの証人、モルモン教、統一協会などとは異なります。